

第5回 J E T 地域国際化塾
～ J E T 青年による地域の魅力発見と地域活動への参加促進～

総務省自治行政局国際室

令和2年12月16日（水）～17日（木）の2日間にわたり、鳥取県との共催で「J E T 青年による地域の魅力発見と地域活動への参加促進」をテーマとして第5回 J E T 地域国際化塾を開催しました。

1. 趣 旨

人的交流プログラムである J E T プログラムの参加者は、地域社会との関わりを積極的に持つことを通じ、日本社会や日本人についての理解を深めるとともに、帰国後は日本と母国の架け橋となることが期待されている。

J E T 地域国際化塾は、J E T 青年に対して、地域文化の体験やグループワークなどを通じて、地域の魅力についての理解を深め、地域への参加・貢献について考えてもらうことを目的として、これまで4回開催しており、令和2年度は鳥取県との共催で実施したもの。（第1回は平成27年度に石川県、第2回は平成29年度に茨城県、第3回は平成30年度に青森県、第4回は令和元年度に宮崎県で開催。）

2. 日 程

令和2年12月16日（水）から12月17日（木）まで

3. 開催方法

オンライン

4. 参加者

約70名

- ・ J E T 青年（鳥取県内 J E T、県外 J E T）
- ・ 地方自治体・地域づくり活動関係者

第5回JET地域国際化塾(共催:鳥取県) 実施概要

JET地域国際化塾の目的

地域で生活するJET青年と、自治体・地域活動関係者との出会い・交流の場である「JET地域国際化塾」を開催

- ➡ ○JET青年による地域への参加・貢献を促進
- 外国人の視点を地域活性化に応用

※新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度はオンラインで実施

1日目(12月16日)

○オープニングガイダンス

JET地域国際化塾の趣旨や流れを説明

○基調講演

三朝町地域おこし協力隊 リエヴェン・アントニー氏による「JETプログラム参加者の地域への関わり方」をテーマとした講演により、本事業を通じて考えてほしいことや地域への貢献のあり方等について理解を深める

○地域文化体験

鳥取県の伝統工芸等の地域文化にまつわる活動を体験し、理解を深める

(実施方法)

体験キットを事前に参加者へ送付し、
オンラインで講師の説明を受けながら組み立てる

(体験メニュー)

星空保全(ミニ望遠鏡づくり)、因習和紙(団扇づくり)、
倉吉いか(凧づくり)、淀江傘(ミニ和傘づくり)



(倉吉いか)



(淀江傘)

○地域事業者等との意見交換

鳥取の自然や地域資源を活用して事業を営む地域事業者等との意見交換を行い、海外への地域情報発信や地域活性化の手法を学ぶ

(地域事業者等)

- ・砂丘ヨガ 代表 石谷 依利子 氏
- ・一般社団法人五し(ごし)の里さじ地域協議会 会長 藤原 俊文 氏
- ・特定非営利活動法人未来 理事長 岸田 寛昭 氏
- ・公益社団法人青年海外協力協会南部事務所 代表 亀山 明生 氏

2日目(12月17日)

○外国人居住者や多文化共生の推進に携わる方々との意見交換

鳥取県内の外国人居住者及び自治体等職員等との意見交換を実施

(話し手)

外国人居住者2名、自治体職員等多文化共生関係者2名

○成果発表

予めグループ毎に指定されたテーマに沿って、それぞれが学んだこと、感じたことを発表し、共有することで、各自の地域活動への参加・貢献に対するイメージを広げる

成果発表の概要

地域との関係づくり (A,Eグループ)

○理想・目標

地域の日本人住民と外国人住民の双方が自ら交流することを望む地域社会づくり

○学んだこと

- ・地域住民との信頼構築の重要性
- ・地域住民や外国人住民が興味を持っているものを交流のきっかけにすること

○課題

- ・世界情勢・メディアなどの影響による交流事業や地域住民の意識・感情の急変などへの対処
- ・言語の壁

○解決策

- ・1回、2回の事業で終わるのではなく、常にやり取りをしながらネットワークを構築・持続
- ・無料日本語教室の開催や、多言語・やさしい日本語での情報提供

在住外国人が活躍するための環境づくり (B,Fグループ)

○理想・目標

地域住民の「外国人」に対する捉え方を広げ、外国人住民・日本人住民が互いに支え合う街づくり

○学んだこと

- ・外国人住民のための生活・就職支援の重要性（病院における多言語問診票など）
- ・日本の外国人住民の多くは欧米系ではないこと

○課題

- ・外国人住民に有益な情報の発信方法
- ・欧米系の人が「外国人」として認識されやすく、そうでない外国人がより多く在住していることが意識されにくい

○解決策

- ・SNS・地元報道機関等の活用、日本語教室や外国人が多く在籍する企業への情報発信
- ・どのような人が地域に住んでいるか、統計も用いて周知

地域の魅力発信 (C,Gグループ)

○理想・目標

情報を世界規模で発信することで、外国人の地域に対する関心を高めて地域を活性化する

○学んだこと

- ・自分の興味・関心や人脈を、様々な目的や場面で活かせることがあること
- ・地域を巻き込むことや、自分や地域に合った立ち位置を見つけることが大切であること

○課題

- ・広報の掲載手段が限定されており、外国人にとって一般的な検索方法では見つけづらい
- ・地域住民の地域の魅力発信に対する意識を高める必要がある

○解決策

- ・SNSやインフルエンサーを活用したり、スタンプラリーなどのイベントを通じて広報を行う
- ・JETをはじめとする在住外国人と地元の企業が一緒に活動

地域の国際化における在住外国人の役割 (D,Hグループ)

○理想・目標

日本語能力の高い外国人が日本人と外国人との架け橋となり、誰でも参加できる交流の機会を作る

○学んだこと

- ・スポーツや料理体験等の趣味を生かした、言葉を用いない交流の有用性
- ・住民同士の多様性を認め合う交流団体も既に存在していること

○課題

- ・仕事以外の新しい交流への挑戦に踏み出せない外国人は少なくない
- ・交流を妨げるような固定観念、偏見

○解決策

- ・日本語能力の高いJET等が交流イベントを企画する等外国人と日本人がお互いに参加しやすい機会を設ける
- ・既にある交流団体に外国人住民が参加し、積極的な活動を継続